

中国広東省大学生招聘プログラムを実施

—災害時の日本の取り組みを知り、防災・減災への意識を高める—

2024年7月29日～8月2日

協力：中国広東省人民対外友好協会

参加者：中国広東省大学生（暨南大学、華南理工大学、広東外語外資大学の学生各1名）

経済広報センターは、2015年から中国広東省の大学生招聘プログラムを実施している。24年は、7月29日～8月2日の5日間の日程で、広東省人民対外友好協会の謝志根副秘書長を団長に、華南理工大学、暨南大学、広東外語外貿大学の学生が参加した。

■防災・減災対応をめくり、日本企業の先進的な活動について聴く

昨今、気候変動の影響を一因とする異常気象により、世界各国で台風や大雨などの災害が頻発し、激甚化している。また、日本では大規模な地震が頻発し、それへの弛まぬ対応が課題となっている。そこで同プログラムでは、「企業の災害への備えと災害時の取り組み」をテーマに、日本企業訪問や各種施設の視察を通じて、防災・減災に向けた活動について説明を聴くとともに、熱心に意見交換を行った。

一行は、森ビル、LINEヤフー、経団連、セブン-イレブン・ジャパン、MS&ADインターリスク総研を訪問。帰宅困難者受け入れのための備え、災害時の情報発信におけるITの活用、復興に向けた被災地支援や、事業継続計画（BCP）の策定と検証・訓練など、企業・団体の具体的な取り組みについて多くを学び、理解を深めた。また、大雨の際に一時的に水を貯留して川に放流することで洪水から街を守る施設や、洪水や地震を体験する施設を訪問し、知見を深めた。

■両国の経験を生かしつつ共に学び合うことで、災害対応の充実を図る

意見交換では、災害が多い日本ならではの対策に関する質問に加えて、中国の災害対策について情報を共有するなど、中国側との違いと共通点を踏まえた活発な議論が展開された。

学生からは、「自らを守る自助と周りを助ける共助の考え方を常に持つことや、事前の準備の重要性について新たな発見があった」「日本は防災・減災について豊富な知識と経験を備えている。今回学んだことを中国でも生かしつつ、両国は防災対策において協力していく必要がある」との意見が出た。

謝団長は、「大規模な災害時に企業が果たす役割は大きく、普段から啓蒙活動や研修を実施していることに感心した。今後も中国と日本は災害対応で一層交流を深め、防災・減災能力を高めたい」と述べた。

以上



森ビルを訪問

一般財団法人

経済広報センター

国際広報部

〒100-0004 東京都千代田区大手町 1-3-2 経団連会館 19 階

電話：03-6741-0031

<https://www.kkc.or.jp/>

<https://en.kkc.or.jp/>

※本稿の無断転載を禁じます。